

それぞれの役目を果たし いざ、陽気ぐらし世界へ

ひきよせ



▶委員長講習会の様子(記事3面)
◀災害隊、能登半島地震出動時の様子
【上：現場作業、下：宿舎食事風景】
(記事4面)



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

慈悲の心

先月に続き『教祖より聞きし話・高井猶吉(道友社)から学びました事を、この誌面に合わせ、私なりに思案してお伝えさせて頂きたいと存じます。

人として誰しもが本来的に持ち合わせている、子供達を愛する心は、父性であり母性であり、慈悲の心であると存じますが、おやさまは、「この温かい心を万人に使うのやで。」とおっしゃいました。

おやさまは、月日の社にお成り下さる以前から、人様の病気、特に預かったお子様が命に関わる病となった時には、その平癒を神仏に祈る際、私の命を差し上げますからお助け下さいと本気で願われた程、慈悲深いお方でしたが、親神様が入り込まれてから先は、全てのの人々を、正に我が子として慈しまれ、おたすけをして下さいました。

「教祖ほど、隔ての無い方はない。おちばへどんな人が参りましても、みな可愛い我が子と思うておいでになる。どんな人が来ても『ご苦労さん』、物貰いが来ても『ご苦労さん』。少しも隔てはなさらん。世の中の全ては、この温かい心、慈悲の心で繋がって行くのである。(猶吉先生)」
また、十ある親神様のご守護の一つ一つか

お知らせ

青年会 夕張分会総会 6月30日(日) 2930日(土)
【前夜祭】
月次祭 7月15日(月) 9時30分開扉献饌
婦人会第49回夕張支部総会 7月21日(日)
少年会こどもおちばがえり 7月26日〜29日

ら、私たちが真似をするべき心遣いが学べるのだそうです。

くにとこたち様からは、水のように形を変えられる素直な心、包み込む優しさ。をもち様からは、火の温かさ、どうでも救いたい心。いざなぎ、いざなみからは、親神様に真っ直ぐついで行く一筋心。くにさづちからは、慈悲を持つて優しくつなぐ心。月よみからは、神を立てる心。くもよみからは、飲み食い出入り、即ち自らに知恵を入れ、人救いの為に知恵を出す心。かしこねからは、風、即ち言葉によって人を救う心。たいしよく天からは、思い切り、決断心。をふ(う)とのべからは、人を引き立て、勇ませる心。以上、これらを身に付けたいと思う時、大切な事は耳の使い方、埃を積み重ねると私は本書から読ませて頂きました。

咎められる理由無く、自分が悪く言われる事があつたら、怒らずに、耳が聞こえる借りの身体がある事を喜んで、埃を積まないようにし、自分も良かれと思つて人の気分を害する事を言わぬように気をつけて通れば良いのだと。怒りで慈悲の心を曇らせては、せっかくの親切も神が受け取れない。慈悲の心は必ず受け取つて下さると学ばせて頂きました。今月も親神様にもたれて頑張りたく存じます。

大教会長 藤田大和

五月月次祭の様相

5月の月次祭当日、岩見沢は五月晴れの良い天気となり、道内各地から続々と参拝者が大教会に集まった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りののをどりが勤められた。神殿内には陽光が差し込み、明るい中で奉仕者一同の手も勇んでいた。

講話には齊藤真善・東苗穂分教会長が立ち、「長男が初めての大学受験に失敗した夜、彼と8時間、話をしました。その中で、『五感で確かめられるものしか信じられない』と彼は言いました。神様の存在について尋ねてみると、『教祖物語』を何度も読み返したが、それが事実かどうか確かめようがない』と言います。さて、どうしたものかと考えながら、本人の話を聞いていると、学校時代のつらい経験が語られました。この背景には、長男の特性が関係しています。

① 感覚過敏

聴覚過敏・・・2万ヘルツ以上の音を聞かせた時、「痛い」と言ってヘッドフォンを外した。勉強しているとき、隣室から音が聞こえると手が止まってしまふ。

触覚過敏・・・吸収性の高い布地はちくちくして触れない。

視覚過敏・・・映画は映像が速すぎる。最後まで観れない。

等々、五感で感じる情報が、通常の人よりも多かつたり、強かつたり感じているようです。入力されるたくさんの情報に圧倒されながら生活してきたのだと推測されます。

② 人との会話のために「アプリ」を作る！

「アプリを作るのに、データを集める必要があります、とても時間がかかる。」

毎年3月になると4月から新しい人間関係が始まるので、新しいアプリを作らなければならぬからすごく憂鬱になる。人と会話するとすごく疲れる」

他者の感情や意図は目に見えないため、長男にとつて理解するのはとても大変そうです。直観で理解するのではなく、情報を一つ一つ論理的に検証しながら他者の心がかかっているようです。入力される情報で、意識は満杯な状態なので、見えない世界にまで想像力を働かせる精神的余裕がないのだ、と思いました。

③ 大学受験のこと

父親「合格した人たちは、小学校や中学の段階から、将来をイメージして、そこから現在に向けて逆算して、勉強してきた人だと思ふ」長男「僕はいつも目の前のタスク

でいっぱいになってしまふ」

父親「目の前の感覚処理、タスクで意識が常にいっぱいだから、未来のような目に見えない抽象的なことを想像する余裕がないのだと思ふ」

長男「確かに、先の見通しを持つことは自分はやつてこなかった」

「神様がいるかどうかと考えたが、それ以前の問題だった。見えないものの中には、将来の自分の未来の時間も含まれるから」

将来もまた、目に見えない世界です。本人も言っているように、目の前の課題で意識は常にいっぱいなので、未来を想像する余力がないのだと感じました。

このように、現在長男は、目に見えない世界を想像することが難しい、という悩みを抱えており、そのことを自覚したことで、悩みが一層深くなったようでした。これから他者とのようにコミュニケーションすればよいのか？ 将来どのように自分が生きていくべきなのか？ といった、根本的な問題にぶつかり、途方に暮れている状態でした。

長男の特性は把握してきたつもりでしたが、ここまで深く悩んでいることに気づいてあげられなかったことに、申し訳ない気持ちになりました。同時に、親としてどのように導いていけばよいのだろうか、と思いました。自分と長

男は似ているところがあり、彼の辛さは想像ができませんが、経験やものの考え方は違い、私の考え方や価値観を伝えるだけでは、彼の悩みは解決できそうにない、と思いました。

長男の名は『空(そら)』と言います。『空』について触れている、親神様の言葉を探すと、一つだけありました。

『空を見て、空の理を楽しむなら、日々近づく理である程に〜』
(明治32・2・2)

『空』という言葉には、次元の異なる場所から世界を見ること、空の高みから人間の出世を温かく導こうとしている親神様の視点を感じながら、親の視点に自分の視点を合わせることの大切さが込められている話だと理解しました。

長男は、五感で受け取る情報に圧倒され、今この瞬間にとらわれることが多く、目に見えない人の心を理解したり、未来を考えることなどが苦手である事実を考えると、時間的・空間的に俯瞰して、物事を把握することが出来ずに苦しんでいる状態と考えられます。

『空』という名の長男が、『空』の視点に立つことがわからない、と日々悩んでいることに何か意味があるように思えてきました。

『空の理』に関するおさしづの意味は、長男に対し親としてどのよ

うな心構えで接していけばよいかわを示された、と感じました。子どもに見せられる事情は、育てる親の成人の未熟さを指摘されているのであり、また親自身が成人することを期待されているのだと思えます。目に見えない世界、親神様の親心を想像できないのは、長男だけでなく、私にもきつと当てはまる、ということでした。

私は仕事柄、悩む青年の相談をすることが日常となっています。不思議なことですが、長男の事情以降、似たような悩みを持つ青年の相談が増えてきました。長男との対話で悩み考えたおかげで、相談にくる青年や保護者の気持ちがよくわかるようになりました。長男の事情を話の台にして相談すると、相談者の方がパツと視点を切り替えて明るくなったり、生きる意欲が出たりする場面に出くわることがあります。長男に見せられた事情のおかげで、自分も少しだけ成長させていただけただのだと思えます。これは長男が悩んでくれたおかげです。

人の出世をねたむのではなく、あなた自身も将来出世することができるんだよ、と親神様が予告しているのだから、人の出世を我が事と捉えてほしい、というのが『空の理』に込められた親神様のお気持ちである、と『おさしづ研究』で解説されています。



齊藤真善会長神殿講話
全文は、下のQRから



相談にくる青年たちが自立していく姿を見る時、もちろんうれいのですが、家に帰るとうちの子どもは大丈夫だろうか、という気持ちになります。しかしこれは神様の予告であり、私が成長する機会を与えてくれていると考えれば、将来必ず長男もそのように出世して、自立するときに来るのだな、と思えるようになりました。我が子可愛さから、あれもこれも心配という気持ちになります、焦らずに、子どもの成長と一緒に楽しみたいと思います。

長男と対話を始めてから3年がたちました。長男はおかげさまで、友達やパートナーには恵まれています。人から可愛がられる徳分があるのは、神様のご守護だなあ、と思います。先日、長男と二人で

飲みに行きました。相変わらず悩みは尽きないのですが、不思議と人には恵まれていることに触れ、親しい友達やパートナーに出会えたことについて嬉しそうにしながら『もしかしたら教祖はいるかもしれない』とつぶやきました。

長男は、信仰からは距離を取っている状態ですが、不思議が神と申す通り、人との出会いを不思議と感じられる感性があることに安心しました。いずればきつと神様の親心を感じられる時がくると信じ、その時を楽しみに待ち続けたいと思っています。

『空の理』のおさしづは、当時の別席の取次人が、銘々の解釈でお話をしていたことを、親神様がお諫めになつて言葉です。明治32年当時は、信仰初代から数えて、四代目となっている時代でした。つまり教祖と直接対話し、そのひながたを直接見ている三代目までの世代が出直し、教祖のひながたを親から聞いて育った本部長が主流になったときのお言葉です。ひながたを見ていないので、銘々の解釈で別席の話をしていただくと推測され、親神様がお諫めになつたのだと思います。

私は東苗穂分教会の名称に改めてから、三代目の会長に当たります。初代と二代目が苦勞してきた姿を目にしました。初代のひ孫になる長男は、四代目にあたり

ます。初代と二代目がどのような思いで教会を受け継いだのか、知らない世代です。

私共の教会は、初代の長男の事情により、名称の理を受ける心定めをしました。『三代目に必ずご守護いただく』という栗山分教会三代会長の言葉に励まされ、初代と二代は信仰をしてきました。その言葉通りに、三代目の私や、いとこたちは、結構に日々を過ごさせていただいております。反面、四代目の子どもたちは、この結構さが当たり前になつていられるかもしれない。ここに、親神様のご心配があるのではないかと感じます。

長男に事情を見せられていることを考える時、また同じいんねんに困らないように、改めて教会の元一日を振り返る機会を与えてくれている気がします。教祖のひながたはもちろんのこと、初代や二代目の苦勞を次の世代に伝えなさい、という親神様のメッセージかもしれません。四代目に信仰を伝えるためには、私自身が初代の気持ちに立ち返り、なぜ今結構に過ぎていのか、三代目の私が四代目に伝えていけたら、と思つています」と話した。

祭典後には食堂にて豚丼が振舞われ、参拝者たちは丼を口いっぱい頬張りながら、美味しい美味しいと笑顔を見せていた。

婦人会委員部長講習会

5月14日10時より例会日に合わせて、婦人会委員部長講習会が開催され、26名が参加した(写真表紙)。

神殿でおつとめが勤められた後、食堂に移動して婦人会本部からの連絡事項、4月の第106回婦人本部総会おぢがえり報告に続いて、講習会を実施。藤田美由紀支部長あいさつ、その後婦人本部総会での真柱様メッセージ、また婦人会長様のあいさつをもとに練り合いが行われ、参加者は改めてそれぞれの日々の通り方を振り返り、これからの信仰の糧とした。

また、昼食にはお弁当を頂きながら、和気あいあいとした時間を過ごし、午後からは大教会境内地の除草ひのきしんに汗を流した。

**善進道分教会
五代会長就任奉告祭**

春風そよぐ5月19日の吉日、善進道分教会にて五代会長就任奉告祭が執り行われた。この日を楽しみに、道内外から多くの信者・教友が集った(写真下)。



大勢の参拝者を迎え、厳かに奉告祭が勤められた

教会を今日の姿にまで丹精してきた先代達の道に思いを馳せ、縦の伝道に邁進していくことを涙ながらに誓った。

おつとめ後、参拝場にて祝賀会が催され、新会長の子どもの頃の話や、父である三代・卓哉会長の思い出話が出て、大いに盛り上がった。

最後にはこれまで会長を務めていた恵子前会長に、沢山の孫一人ひとりから花束が手渡され、会場内は感動のムードに包まれた。(藤崎勇)

被災地支援に入って

栗山分教会長 富山知一



被災地に入ってなにより一番驚いたのは、4 か月経って尚、被災当時の爪痕が至る所に生々しく残る、その現実でした。押しつぶされた家屋、完全に横倒しになっている納屋。復興までに一体どれほどの時間がかかるのだろうか、私でさえ途方に暮れるような景色が、目の前に広がっていました。

私は、5月4日から7日までは北海道教区隊として、そして引き続き13日までは、新たに御命をいただいた、災救隊本部主事として、能登半島地震の被災地支援に携わりました。

5月4日、新潟港から陸路で被災地に向かう道中も、被害のひどかった能登半島北側に進むにつれて、道路は地震により崩れ、歪み、まるでジェットコースターのような状況。大自然の偉大さと、我々人間はその懐住まいをしているのだということを感じざるを得ませんでした。

今回の宿営地は、高校野球やラグビーで有名な、日本航空高等学校石川で、教室にブルーシートを引いてあるだけの簡素なもの。被災された皆様も同じような状況だったのかと、当時のご苦労が偲ばれました。水道は使えず、飲み水などは屋外の仮設テント内に設置された給水所から、我々が寝泊りする3階まで階段で運びました。それだけでもひと仕事で、当たり前前の日常がどれ程ありがたいのかを、改めて身に染みて感じました。

翌5月5日からは、早速現場にて作業を開始し、期間中は主にコンクリートブロック塀の解体作業にあたりました。効率よく作業が進むよう、またケガのないように声を掛け合い、被災者の方々に少しでも喜んでもらおうと、皆がひのきしんに励んでいました。

そんな中、とある作業現場のお宅でお手洗いをお借りすると、家主のおばあちゃんは、私たちのために山の麓まで、水洗トイレ用の湧水を汲みに何度もご苦労されていました。そのお宅も例外なく、水道が使えない状況で、別の方法で用を足すのでと声をかけると、「自分の家の事をしてもらって、黙っているわけにはいかない」と、何度も何度も水を汲みに行って下さり、作業を終えてご挨拶に伺うと、「ありがとう、ありがとう」と、涙を流して我々に感謝の思いを伝えて下さいました。その姿に胸が詰まる思いをしたのは、私だけではないと思います。

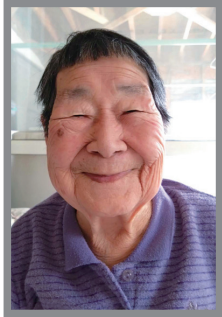
今後、本部主事として、たびたび被災地を訪れることがあるかと思えます。僅かずつでも、しかし着実に復興が進むよう、できることから一生懸命つとめに励みたいと思います。

訃報

錦之旗分教会六代会長

柴田英子様

享年九十三歳



5月19日、美唄市の錦之旗分教会6代会長、柴田英子様が出直さ

れました。英子様は北相生の咲山スエ子さんの妹で、生粋の信仰家庭で育ち、錦之旗の5代会長昇治郎氏と結婚。上級である峰延分教会の上にも心を尽くし、多くの信者さんを丹精され、教会を博行氏に譲られた後も元気に支えていました。ここ数年は身上がりであつたが、今年の桜を最後に惜しくも出直されました。ここに、生前に大教会へお尽くし頂いた感謝を述べて、哀悼申し上げます。誠に有り難うございました。

第49回婦人会 夕張支部総会案内

日時：7月21日(日)
受付 9:30 開会 10:00

内容：よろづよ八首奉唱、感話、
催し物、昼食【お弁当】

ハッピー着用にて勤めさせていただきます

にいがけ実動について

◇活動報告

日時：5月16日 10時～15時

場所：岩見沢市内

参加人数：4名

内容：神名流し、戸別訪問、
チラシ配り

◆次回以降実施予定

日時：7月31日 10時～15時

8月31日 10時～15時

集合場所：夕張大教会

※6月は、青年会総会(6月30日)に青年会主体で実施いたします。

庶務部

5月

▽おさづけの理拝戴

杉村 正次(南幌)

▽教人資格検定講習会

阿部 恭子(直轄)

▽本部食堂ひのきしん

藤崎 実(旭都)

藤崎 勇(旭都)

▽話所ひのきしん

梶川 芳史(新生生)

▽をびや 1件

▽話所教養掛

6月 岩佐善昭(志加ノ谷)

7月 前半 富山真理子(栗山)

後半 齋藤智明(南幌)

大教会日誌抄 5月

1日 たすけ推進会議

4日 会長、支部例会、組例会

5日 前会長、新生生巡教

12日 会長、馬追巡教

14日 月次祭準備

15日 月次祭

19日 会長夫妻、善進道奉告祭

24日 前会長、札幌月次祭

26日 会長、おぢばへ

27日 会長、本部神楽当番

28日 会長夫人、おぢばへ

30日 会長夫人、本部婦人会例会

30日 会長、帰会



廻廊ひのきしん(5/25、6名参加)